

の腫瘍，腹部 CT にて肝臓転移が認められた。腹腔鏡下および気管支鏡下の生検にて異型カルチノイドと診断された。また，血中セロトニン，カルシトニン，尿中 5-HIAA の高値がみられ，酵素抗体法にて腫瘍細胞体内にカルシトニン陽性顆粒が証明された。

49. 肺孤立性アミロイド結節と思われる 1 症例

国療沖縄病院外科 国吉真行
下地光好，久貝忠男，上原力也
山内和雄，石川清司
源河圭一郎
県立宮古病院内科 恩河尚清
同 外科 川畑 勉
琉球大第 2 病理 岩政輝男

原発性肺アミロイドーシスの 1 例を経験したので報告する。症例は 68 歳の男性，集検にて発見され肺癌を否定できず切除術を行った。切除標本の病理組織診断は好酸性の硝子様物質の沈着で，PAS 染色で陽性に染まり，コンゴレッド染色では赤橙色に染まり，更に偏光顕微鏡下では緑色に光り，アミロイドであることが証明された。このアミロイドは免疫組織学的には免疫グロブリン由来であった。

50. 原発性肺平滑筋肉腫の 2 例 大分県立病院胸部血管外科

赤嶺晋治，山内貴堯，君野孝二
山岡憲夫，松尾 聡
同 病理 辻 浩一

症例 1 は 37 歳男性で，主訴は左背部痛。胸部 X 線にて左下肺野に 11×14cm の腫瘍影を認め，左下葉切除を行い，肺静脈原発の平滑筋肉腫であった。術後 29 カ月で縦隔に再発し死亡した。症例 2 は 56 歳女性で，検診にて胸部異常陰影を指摘され，胸部 X 線にて右中肺野に径 4cm の腫瘍陰影を認め，経皮肺生検で良

性腫瘍の診断をえ，肺部分切除を行った。病理組織診断は気管支原発の平滑筋肉腫であった。術後 29 カ月経過し再発なく健在である。

51. 肺癌肉腫の 1 例

健康保険諫早総合病院内科

坂本 晃，宮崎幸重
長崎大第 2 内科

小森清和，神田哲郎，原 耕平
同 第 1 外科 川原克信

富田正雄
73 歳，男性。昭和 62 年 4 月より血痰が出現し 6 月 25 日精査目的で入院。胸部 X 線写真では右肺門部に腫瘍影が認められ，断層写真，胸部 CT では右 B³ 気管支壁に沿った腫瘍の増殖が認められた。気管支鏡検査では右上幹よりポリープ状に腫瘍が突出し，生検では壊死組織のみであった。6 月 30 日右上葉切除術を施行し，組織学的には扁平上皮癌と紡錘型細胞が肉腫様に増殖し免疫組織化学的検討も加えいわゆる癌肉腫と診断した。

52. 肺 carcinosarcoma の 1 手術例

佐賀県立病院好生館外科

山内 健，古川次男，米村智弘
吉田猛郎

症例は 63 歳男性，血痰を主訴として来院した。胸写，CT にて右 S⁹ に径 4.8×3.0cm 大の腫瘍影を認めた。腫瘍マーカーはすべて正常であったが，骨シンチにて同部位に取りこみを認めた。気管支鏡検査では，B³ 洗浄液の細胞診にて大細胞癌が疑われ，右中下葉切除を施行した。病理組織標本にて，扁平上皮癌の成分と骨肉腫の成分を認め，Carcinosarcoma と診断した。術後 17 カ月の現在，健康である。

53. 特異な組織像を呈した末梢型肺癌の 1 例

産業医大第 2 外科 中西良一

後藤哲哉，小林英昭，渡辺浩行
安川浩文，吉松 博

右鎖骨上窩リンパ節生検により同一検体内に腺様嚢胞癌類似の組織像を呈する部分と，気管支腺由来のさらに未分化な腺癌の組織像を呈する部とを見出した末梢型肺癌を経験した。症例は 53 歳女性で主訴は咳嗽。昭和 63 年 11 月頃より頻回の咳嗽を認めるようになったため近医受診。精査の結果すでに骨転移を有する IV 期肺癌と判明。予後が比較的良いとされている病変にさらに未分化な癌病変を合併したため本症例は予後不良であった。

54. 気管原発腺様嚢胞癌にシリコンチューブを使用し長期生存の得られた 1 例

国療沖縄病院外科 下地光好
上原力也，国吉真行，石川清司

山内和雄，源河圭一郎
諸種の原因による気管の狭窄に対してシリコン T 型気管チューブの気管内固定が施行されている。今回我々は，気管原発の腺様嚢胞癌に対し切除不能と判断し放射線療法を行い，気道狭窄を防ぐ目的で同チューブを使用した。初診より 4 年 6 カ月を経た現在，良好な臨床経過を示す 1 症例を経験した。

55. 左主気管支に発症した微小腺様嚢胞癌の 1 手術例

佐世保市立総合病院外科

地引政晃，南 寛行
窪田英佐雄，河部英明
川淵孝明，梶原啓司，七島篤志
伊福眞澄

左主気管支に発生した微小腺様嚢胞癌の 1 例を経験した。症例は 46 歳男性。血痰の精査の為，気管支鏡検査を施行。左主気管支にカリフラワー様の腫瘍